



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'92 6月号



新常設展示に多くの来館者

一般公開スタートから2か月

■桜の花とともに新しい常設展示が皆様にお目見えして、はや2か月となりました。この間多くの来館者をお迎えし、おかげさまで4月・5月の入館者数も、昨年度の同時期に比べて約20%の増加となりました。

■来館された方から、これまでに寄せられた中ではやはり「展示室が広く、明るくなった」という意見が多いようです。たしかに壁で小さく区切られた展示スペースですと、どうしても後続の来館者に押される形となってしまい、ゆったりとした気分で展示を見る事ができません。こうした意見が多いということ

は、展示物の内容もさることながら、同時に、「展示室の環境」がいかに大切かということを示しているのでしょう。

■各展示物では、押しボタンのあるものに小学生を中心とした人気が集まっています。ひと昔前の博物館と違い、今ではどこへ行っても押しボタンを目にします。でも、押すだけでなく、表示された内容も見て下さいね。

■平塚市博物館では来館された方々の声を今後の展示に役立てて行こうと考えています。ご意見・ご要望などがございましたらぜひお聞かせ下さい。

今月のプラネタリウム

宮沢賢治の双子の星 6月20日~7月12日

■この投影は1990年夏期特別展「イーハトーブ花巻…くらしと文化…」開催のおりに制作したもので、すでに10回も投影してテープやスライドの傷みがめだってきましたが、ぜひもう一度というありがたいご要望におこたえて1ヶ月間再投影することにしました。

■宮沢賢治と童話「双子の星」

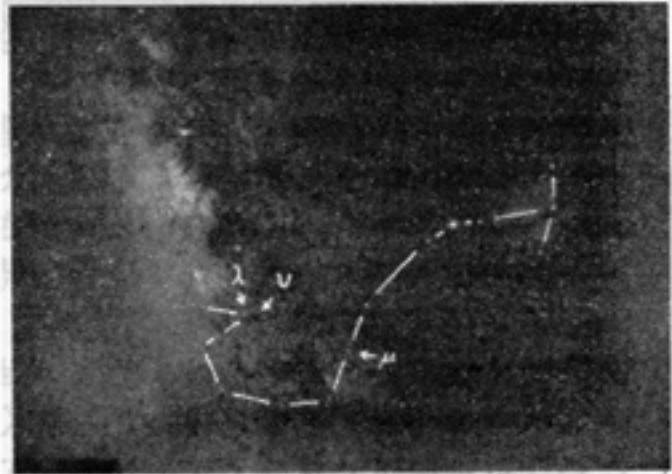
詩人宮沢賢治は現在の岩手県花巻市の生まれで、同地で教職を勤めました。また、近在の青年を相手に芸術や科学を教えたり、農業に対する相談を受けたりして、37才の若さで世を去るまで農村の振興に力をつくしました。

地質を専門にし、科学が好きだった賢治は、星を題材にした詩や童話を多く残しています。「銀河鉄道の夜」や「よだかの星」は今でもたくさんの人々に読まれ続けています。「双子の星」は、賢治の童話の中では早い時期に書かれたものといわれ、チュンセ、ボウセという名の天界の二人のこどもを主人公にした二つのお話から構成されています。投影ではからす座やさそり座が登場する初めのお話の方を紹介します。

■「双子の星」の星

このお話には、さそり、からすなど実在の星座が登場し、活躍するほか、実際の星空がモチーフになっていそうな描写がいくつもあり、興味を誘います。まず「ふたご」ですが、これはお話の設定を考えると星座のGemini=ふたご座ではないようで、先年亡くなられた草下英明氏は著書の中でさそり座の尾にある入(ラムダ)星、ι(ウプシロン)星ではないかと言っています。古来あちこちで兄弟に見立てられた実績のある星です。またさそりの胸と腹の間にある3.1等と3.6等の、スペクトルとともにB型という青い一对の肉眼的二重星、μ(ミュー)星のようにも思われます。これだとさそりを背負ってひきずってゆくさまにぴったりです。そのほか童子たちが遊ぶ泉(かんむり座?)、そこから流れ出す小さな流れ(へび座?)など、星空とくらべながら見て行くと、賢治の想像の世界に直接触れるようで楽しみが増えることでしょう。

番組の製作にあたっては友好都市である花巻の方々に大変お世話になりました。とくに花巻市教育委員会と宮沢賢治記念館からは貴重な資料を提供していただきました。番組中に流れるテーマ音楽は、音楽を担当してくれた大学生の三橋裕之さんが、原作の挿入詩「星めぐりの歌」を、賢治自身の作曲とされる楽譜をもとにアレンジ、演奏したものです。ごゆっくりお楽しみください。



一般投影日：土曜日、日曜日

投影開始時刻：1回目 午前11時、2回目 午後2時（途中入場できません）

観覧料：100円

定員：86名

漂着軽石の謎をさぐる

相模湾岸に漂着した 小笠原起源の軽石

●漂着軽石の発見

博物館では「相模川の生い立ちを探る会」を毎月1回実施し、相模川流域の各地をさまざまなテーマで観察しています。ここでは昨年9月に平塚海岸で実施した際に、多量に見つかった謎の軽石を追跡した結果を報告しましょう。

この日は、「波浪観測施設と砂浜海岸の地形」をテーマに、虹ヶ浜にある国立防災科学技術センター 平塚実験所を見学し、午後虹ヶ浜の海岸で砂浜地形や波浪を観察しました。当日は台風18号が相模湾沖を通過した2日後で、波が荒く、多量の漂着物が汀線から30~40m陸側に打ち上げられていました。この中に灰色の軽石で中に黒色の岩片を持った軽石が多量に含まれていることに気づきました。相模湾沿岸にみられる軽石は、一般に箱根火山起源の白色ないし黄色の軽石であり、灰色軽石は今まで見たことがありませんでした。どこの火山からもたらされたのか興味を持ちました。

●軽石の特徴

この軽石の分布を、相模川の生い立ちを探る会員の協力で調べてみました。伊東~三浦市の城ヶ島まで調べたところ、真鶴~大磯町西小磯を除く各地の海岸で見つけることができました。

顕微鏡下でみると、この軽石は粒径1~4mmにもなる斜長石や単斜輝石という結晶を多量に含み、黒色の玄武岩の溶岩片を取り込んでいるのが特徴です。箱根火山の軽石にみられる斜方輝石という結晶は全く見つかりません。このような特徴の軽石の起源はどこなのか、最近噴火した火山の文献を調べたところ、琉球大学の加藤祐三先生が報告した、小笠原の福徳岡の場起源の軽石にそっくりであることがわかりました。

X線による化学分析でも、アルカリ成分($\text{Na}_2\text{O}+\text{K}_2\text{O}$)が10%以上と極めて高く、箱根起源のものと明瞭に異なり、福徳岡の場起源であることが裏付けられました。

●福徳岡の場海底火山の噴火

福徳岡の場は小笠原にある海底火山で、南硫

黄島の北4kmにあります。ここでは1904年・1914年・1986年の3回にわたって海底噴火をし、一時新島が作られましたが、短期間で波で侵食されています。今回の軽石はこの1986年1月に噴出されたものでした。

●軽石の漂着

加藤先生の報告によれば、福徳岡の場の噴火により漂流した軽石は北太平洋を西方に流れ、5月下旬に琉球列島に大量に漂着しました。その後8月に和歌山県の串本に漂着したといわれます。その先の足どりについては不明でしたが、今回の発見で1986年当時の軽石が伊豆付近まで運ばれていたものと考えられます。その軽石が昨年9月の台風により再度漂流し、強い南風により北上して潮流により相模湾岸に打ち上げられたものと推定できます。

●軽石の意義

こうした漂着軽石からだけでも、「相模湾の沿岸流について」「遠いところの火山活動について」「地層に含まれる軽石層の起源について」などいろいろな問題について考えることができます。



平塚市袖ヶ浜海岸に流れ着いた、福徳岡の場起源の軽石（1991年9月21日撮影）

博物館カレンダー

6月の行事予定

6	土	漂着物を拾う会
7	日	古代遺跡を探す会
9	火	全館燻蒸のため 休館
14	日	相模川の生き立ちを探る会 (江ノ島)
18	木	
20	土	平塚の空襲と戦災を記録する会 土曜観察会 ナチュラリスト講座
21	日	相模川を歩く会
25	木	裏打ちの会
27	土	古文書講読会 漂着物を拾う会

7月の行事予定

4	土	土曜観察会
5	日	天体観察会
11	土	古文書講読会 ナチュラリスト講座 漂着物を拾う会
12	日	相模川の生き立ちを探る会 (愛川町)
18	土	平塚の空襲と戦災を記録する会
19	日	古代遺跡を探す会
23	木	裏打ちの会
24	金	みんなで調べよう(ガイダンス) 夏休み自由研究相談会
25	土	古文書講読会 土曜観察会 漂着物を拾う会 天体観察会 「宇宙科学研究所見学」 体験学習 「手作りおもちゃを作ろう」
26	日	スタートウォッチング 相模川を歩く会 特別展記念講演会 「おもちゃと遊び」
28	火	スタートウォッチング 野外研修講座
29	水	スタートウォッチング
30	木	スタートウォッチング

■「野外研修講座」参加者募集

市内の自然や文化財を題材にした地域学習教材の見つけ方や展開のし方を体験する「野外研修講座」、今年度も昨年同様小・中学校の教員を対象に参加者を募集します。

開催日：7月28日(火)

集合：博物館に午前8:30集合

対象：市内小学校・中学校の教員

応募：往復ハガキに住所、氏名、電話番号、勤務学校名を書いて博物館研修講座係までお送り下さい。

■ナチュラリスト講座

開催日：6月20日(土)

時間：午後6時～8時

講師：山本光人氏

テーマ：「蛾の幼虫のはなし」

会場：講堂

入場：無料

全館燻蒸にともなう

★休館のお知らせ★

平塚市博物館では毎年全館燻蒸を行なっています。燻蒸作業のため、

6月9日(火)～
6月18日(木)

は休館になります。

5/1～6/7 寄贈品J-1 「自然部門」

6/19～7/30 寄贈品J-1

「考古部門」「市制施行当時の資料」

4/1～6/7 プラネタリウム 「星空の四季」

5/13～7/10 プラネタリウム 幼児投影

6/20～7/12 プラネタリウム 「双子の星」

7/18～9/6 プラネタリウム

「いん石～宇宙からの贈り物～」

7/21～8/30 夏季特別展

「おもちゃと遊び」